



農の未来ネット

NO.44
3月号

特定非営利活動(NPO)法人「農の未来ネット」
理事長：倉本器征(東京農工大学名誉教授)

発行責任者：田沼 繁(NPO法人農の未来ネット事務局：電話&FAX 042-313-3620)

編集長：西村正昭

<http://www.nou-mirai.org/index.html>

みらい体験農場

育苗用ビニール ハウスがついに完成

「みらい体験農場」農場長

一之瀬今朝一(通称：オラッチ)

稲の育苗用ビニールハウス建設は、2月23日、3月16日、3月21日の3日間行い、やっと完成しました。ご協力いただいた皆さんには心から感謝いたします。すでに、2月23日の作業状況は農の未来ネット機関紙2月号(No.43)で報告していますが、今回は16日および21日について報告します。

16日は、会員の岩藤さん、武蔵大学の青木さん及び戸田さん、棟梁を担当する吉田さん、地主の細田さん、農の未来ネット事務局長の田沼さんと私の7名が参加。この日の作業は、ハウスを補強するための直管パイプをハウス側面に片側2本ずつ、また通風できる網とビニールを固定するための部品をハウス側面に設置。さらに、ビニールハウス全体が風に飛ばされないよう4隅にアンカー(らせん状の鉄棒)を埋め込みました。棟梁の吉田さんの指示で作業は進行していきます。直管パイプなどを固定するためくさび形の金部品を打ち込む、全員の金槌の「カンカン」という音が

賑やかです。最後は、ハウスのねじれなどを防ぐため、直管を使っての斜交い(はすかい)の設置。この日の作業は16時までかかり、皆さんかなりお疲れになったことでしょう。

21日は、棟梁の吉田さん、農の未来ネット編集長の西村さんご夫妻、細田さんと私の5名。この日の作業は、かまぼこ型ハウスの両サイドへの扉設置。まず、扉設置のための支柱立て、ついで扉以外の部分へのビニールによるステ張作業です。肝心の扉を付けようと



【写真】

左から棟梁の吉田さん、細田さん、西村編集長奥様、一之瀬農場長

したところ扉の留め具不足が発覚。棟梁の吉田さんが後日、扉付けをすることになりました。この日は朝から風が吹きハウスへのビニール掛けはできないと考えていました。しかし、夕方4時頃になって明け方からの風が止み、全体のビニール掛けを急ぎょ実施。大きなビニールをハウス骨組みの全体に掛け、波上のビニール止めを使ってビニールを固定。ハウス下部にある通風部も直管で固定しました。結局、作業が終わったのは日暮れの5時半ごろ。この日も本当にお疲れ様でした。稲の育苗用ビニールハウスができあがったこと

から、いよいよハウス内に「プール苗作り」用のプールを作ります。プール作りは、3月28日を予定しています。

さて、25年度の稲作り計画をつぎのように考えています。

作付け品種は、コシヒカリ、ミルキークイーン、彩の輝きの3品種です。昨年作付した古代米は、食味が悪い、収量が少ない、草丈とイガが長く扱いにくい、他の品種との混ざりが心配なため足踏み脱穀機を使用する等の手間がかかることから作付けを中止とします。農作業は、3月末に種籾の水浸け、4月上旬に育苗箱へ種まき、5月下旬に代掻き・田植え、9月中旬から稲刈りを予定します。なお、今年初めてのビニールハウスでの育苗ですので、田植えの時期が早まるのかは定かではありません。その都度、機関紙等で農作業状況をお伝えします。会員の方やご関心のある皆さまは、種まき、代掻き、田植え等の農作業に振るってご参加ください。お待ちしております。

棟梁
吉田さんからのコメント

3月16日、21日の2日間、稲の育苗ハウス建設に協力いただきましてありがとうございました。私自身、久しぶりの建設でしたのでうまくできるか心配でした。就農した当時は、村の施設園芸をする人が集まり、共同作業で建設していました。最近のパイプハウスは、構成部品がよくなり、設計次第で風や雪に強くなっています。また、側面には防虫ネットをはり、害虫や、鳥などの侵入をふせげます。その上、今回屋根に張ったビニールは一度張ると5年間は交換がいらぬものです。大きな災害がなければ骨組みは20年位持ちますので、末永くがんばっていただきたいと思ひます。

アグリ・ボラバイト レポート(その2)

先月号(農の未来ネットNo. 43, 2月号)に引き続きアグリ・ボラバイト参加者の感想を掲載します。ご覧下さい!!



▼明治大学大学院 菊地将史さん

目の前にある太くて大きなネギをポンポン掘っていく。ネギって簡単に抜けるじゃん、と思っていたら、トラクターが入れられないところは鍬で掘り起こすとのこと。翌日は腰も腕も筋肉痛。ネギが抜けなくて根っこをポキポキ折ったし、目に染みて涙は止まらないし、三日は掌がネギ臭かった。だけど、農家の奥さんの美味しいご飯でエネルギーをもらい、夜の星空で癒やされて、大地の上で思いっきり伸びてリラックス。最高の贅沢だと思いました。

▼武蔵大学 黒田真之介さん

アグリボラバイトという聞き慣れない体験を終えた今、始まる前に予想していたよりも多くのことを得られた充実感で満たされている。この体験でのメインテーマとなるのはもちろん「農業」ではあるが、多くの人が想像しているような、畑を耕したり作物を収穫するだけが農業ではない。草むしりや苗植えから始まり、穫れた野菜の袋詰めや産直センターへの運搬など、全てこなしての「農業」である。この体験を通じて、職業としての「農家」の辛さや楽しさの一端を垣間見ることができて、大変貴重な経験となった。

▼明治大学大学院 馬場智也さん

私は今回初めてアグリ・ボラバイトに参加させていただき、深谷のネギ農家で主にネギの収穫・出荷の手伝いをしました。

何よりもまず感動したことは収穫したてのネギの甘さでした。それはまさに深谷の大地が育んだ自然の甘さでした。

そんな素晴らしいネギを収穫するのはとても気を使い、多少の疲れを感じたものの、農家の人たちの優しい心づかいもあり、楽しく伸び伸びと働くことができました。

普段の生活にはない非常に有意義な経験となりました。

▼明治大学大学院留学生 韓恵里さん

はじめまして。今回農村体験をさせていただいた韓国からの留学生である韓と申します。私は、ミニトマト狩りを体験しましたが、いつもスーパーで買って食べるミニトマトを自分で直接とったことと、農民の方々が組合を作り、お互い収穫した野菜や果物を安い価格で共有していることが印象深かったです。私は農村体験が初めてであって、すこし緊張したのですが、農民の方々が温かい気持ちで親切に接してくださったので、楽しくいい経験ができたと思います。多くの方に自分も感じた人の温かさ、食べ物の大切さを体験していただければと思います。



サロン学習会を開催します テーマ：農地の放射能除染は どうなる！！

福島原発事故から早 2 年。でも、いまだ多くの人が避難生活をし、農業では原発による農地の放射能汚染が深刻です。そこで、農地除染の研究開発に第一線で携わっている農研機構農村工学研究所の中達雄氏をお招きしてのサロン学習会を開催します。

1. 日時:平成 25 年 4 月 27 日(土) 14:00 ~ 16:00

2. 開催場所 :ワーカーズフェアビンデン

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-5

3. 会費:一般2000円、学生1000円(飲料代)

農の未来ネット ホームページリニューアル進行中



農の未来ネット広報・IT担当 濱田 仁

現在、皆さんにご覧いただいているホームページは、設立時に構築したものです。この度、ホームページをリニューアルすることにしました。リニューアルの視点は、次の項目です。(1) インターネットを取り巻く環境の変化。(2) ホームページの使い方の変化。

インターネットは短いスパンで次々と進化し、設立当時の 2008 年からは大きく変化しました。5 年前は、ホームページをみる手段として多くの方がパソコンを利用していました。ところが、この数年は iPhone などのスマートフォンや、iPad などのタブレットからアクセスされることが多くなりました。スマートフォンやタブレットは、パソコンと比べて画面の大きさが小さいため、パソコン用に構築されたホームページの画像や文字は縮小されてしまいます。また、インターネットに接続する方法も光ファイバーや高速モバイル回線が利用され、文字や画像以外での情報伝達も行われるようになってきました。そこで、リニューアルにあたっては、スマートフォンやタブレットでも見やすいホームページにします。

特に、アグリ・ボラバイトを希望する学生さんのためにも、早急に対応をしたいと考えました。

ホームページの使い方は、「情報を伝える」から「参加する」に変化してきています。テレビ番組や新聞では Twitter や Facebook を活用し、視聴者との交流を行っています。私たちも Facebook の積極的な活用でアグリ・ボラバイト参加者との交流が進み、みらい体験農場や農業参加プログラムへの参加者が増える効果が出ています。一方で、Twitter や Facebook は情報が早く流れてしまって、過去の情報提供や活動の内容の説明を行うには不向きというデメリットもあります。そこで、ホームページは Facebook と役割分担を行い、より分かりやすい情報提供ができる構成にしています。

なお、リニューアル後も試行錯誤的な修正もあり、一時的に表示が乱れることもあるかと思えます。何卒、末永いご支援をお願いいたします。

農の未来ネット Facebook ページ：
<http://www.facebook.com/nou.mirai>

25年度会費納入のお願い

農の未来ネットのアグリ・ボラバイト事業は、農業生産者や関係機関のご支援により本格化し、武蔵大学や明治大学から多数参加いただいています。また、米作りマイスターにも会員の方々のご参加を得て、活動に幅が出てきています。この1年を総括する第5回総会を5月11日(土)に開催しますので、是非ご参加ください。お待ちしております。なお、会員の方には25年度会費の納入をお願いします。会員の皆様には引き続きのご入会を心かお願いし、また、お知り合いの方に当法人への入会のお声をかけて頂ければ有り難いです。

個人会員:会費月 500 円(年間 6000 円)

団体会員:会費月 1000 円(年間費 12000 円)

学生会員:会費年間 1000 円

郵便振込口座番号:00140-0-428901

加入者名:田沼繁

編集後記

安倍首相がTPP交渉への参加を表明し、農業への暗雲ただよう中でも農家の方は黙々とトラクターで田起こしを始めています。農の未来ネットでも今年からハウスで苗を育成しようとビニールハウス作りに取り組んでいます。農の未来ネット理事の吉田さんが中心となって進めています。3月16日には、武蔵大学経済学部の後藤光蔵教授のゼミ生の方が手伝いにきてくれました。その様子はゼミ生の戸田浩一朗さんがフェイスブックで紹介しています。ありがとうございます。戸田さんの写真を拝見してハウス作りに必ず参加しようと思いました。3月21日に作業があることがわかり妻と一緒に駆けつけました。一之瀬農場長、地主の細田さん、吉田さん、私たち夫婦の5人で作業をしました。組まれていたパイプの骨組みにビニールを貼り付けました。吉田さんのてきぱきとした作業を手伝いました。パイプを切ったり、ビニールをカッターで切ったりビニールを飛ばないようにしっかりと留めるなどの作業を行いました。吉田さんの的確で正確な作業には感心しました。「百姓は100の仕事ができる」という名言を思い出しました。吉田さんはまさに「百姓」なんだと、改めて認識させられました。午前中は風が強かったのですが、午後は風も和らいだのでビニール貼りも一気にすることができました。私たち夫婦もいくらかは役に立ちました。「みらい体験農場・米作りマイスター」の準備が着々と進んでいます。平成25年度の参加者を募集しています。今年も多くの方の参加をお待ちしています。(西村)

